

(2) 三か村堰

この堰は木伏堰ともよばれています。寛文5年（1665年）に、藩の命令によって開かれたもので、木伏・水根沢・大新田の3か村をかんがいしていたので、この名がつけられました。

昭和20年代になって、山口へも、防火・かんがい用水として引いたので、現在は4集落の用水となっています。



現在の取り入れ口



木伏地内を流れる用水



大新田から山口へ流れる用水

(3) 和泉田堰

この堰は、長さがおよそ4390mもあり、福田から乙沢までの水田およそ89ヘクタールをかんがいしています。

この堰を開いたのはだれなのか、はっきりしませんが、現在の只見町塩之岐から来た人だと言い伝えられています。



和泉田の堰の取り入れ口



トンネルの出口



和泉田地内を流れる用水